



## 坂小っ子だより（第51号）

五ヶ瀬町立坂本小学校H27年度、3号

平成27年 5月13日(水)

西臼杵郡五ヶ瀬町大字三ヶ所3446番地

TEL 82-0588 FAX 82-0589 (文責 山下)

「いつもどおり（例年どおり）から一步前進！」

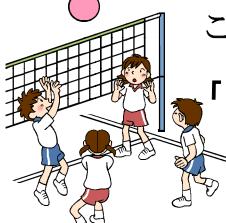
校長 山下 多門

ある日、流れる涙の訳を聞きました。

「どうして泣いているの？」「悔しくて涙が出ます。」スポーツ少年団に所属し、試合に負けてしまった児童が震える声で答えました。



「悔し涙」… 今の子どもたちはどれくらい流した経験があるのでしょう。この経験こそが次の成長をもたらす大きな糧となります。

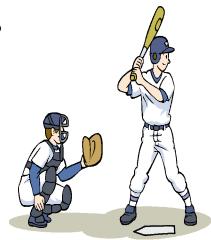


「じゃあ、今までと同じことをしていては、また同じ結果しか出ないよね。そこで、何をどのように変えていけばよいのだろう。」と問うて、その子の変容を楽しみに観ています。

教えることも大事ですが、それに気づかせてやることはもっと大切であると考えます。

「準優勝」…。あと一歩で優勝です。しかし、そのあと一歩がとても容易ではありません。それを自覚させることは先輩である私たち大人の大きな役目です。

勝ちにこだわり過ぎることは、よくありませんが、勝つことでも子どもたちは大きく成長します。



「何を、どのように、どの程度頑張れば良い結果に結びつくか」ということがわかると、大人になり社会に出て、いろいろな場面に応用できる力がつくと考えます。試行錯誤の末、一步踏み出せる人になってほしいです。



私たち教師の世界でも、諸教育活動の反省を基に課題を分析し、それをどのように、どの程度努力していくか改善し、一人一人の子どもたちに力をつけていくのかという話し合いを行い実践します。個人の力が高まれば自ずと学級（学年）全体、ひいては学校全体の成長につながります。

また、教育振興会（PTA）活動においても同様です。先日、常任委員会でのあいさつの中でも「いつもどおりは、停滞あるいは後退です。」と述べました。

すると、「校長先生、担当で実状を考え、やり方を変えて、

～してみてはどうでどうかと話し合いました。いかがですか？」と

役員さんから相談を受けました。「まずはやってみましょう。それで

うまくいかなければ、また考えればよいと思います。」と答えました。



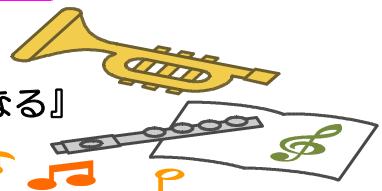
一步踏み出された教育振興会（PTA）の活動、楽しみです。今後もそういう取組が増えてくることを大いに期待しています。

## 元気の出る言葉、輝き言葉

『人は何度もやりそこなっても「もういっぺん」の



勇気を失わなければ、必ずものになる』



これはかの有名な松下幸之助さんの言葉です。毎週一つ、読んで元気が出る、輝いて



いる言葉を黒板に書き始めて、数ヶ月が経ちました。「校長先生、言葉の意味がわかりません。」「わからない言葉は辞書を引いてごらんなさいよ。」というやりとりも初めの頃にありました、最近では、「なるほど。そういう意味だったのか。」

【今週の元気の出る言葉】という感想も聞かれます。また、上級生に「どんな意味？」と尋ねる下級生の姿、「これはね、…とよ。」という場面も見られます。また、「毎週楽しみにしてます。子どもたち以上に自分が励まされています。」と先生方からのコメントも寄せられました。（何を隠そう私自身も元気を出させてもらっている言葉たちです）

先日の坂本城址春祭りや地域の方との会話の中でも、

「校長先生、地域に届けられる学校だより楽しみに読んでいます。」

「ありがとうございます。また、頑張ります。」

私にとっての特に元気の出る言葉でございました。



21日（木）春の遠足は、海岸に出かける計画を立てています。